

### 3. 2017 年度活動概要

自律学習研究会は、2017 年度も「英語教育における学習者と教師の自律的成長」の研究テーマを掲げ、各種研究会、JACET 国際大会、JALT 国際大会等で、研究成果の発表と同時に多くの研究者と意見・情報を交換してきた。文部科学省は、わが国の初等・中等教育における新学習指導要領で育成すべき 3 つの柱として、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、そして「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」を強調している。これについては、OECD のキー・コンピタンス、米国他の 21 世紀型スキルの構成内容にも通じると思われる。時代が求める真の学力のキー・エレメントとして、学習者オートノミーの位置づけがより明確になってきたが、日本の大学英語教育においては、まだまだ理論と実践の統合が不鮮明である。これを踏まえた自律学習研究会による JACET 国際大会のシンポジウムでは、「大学英語教育における真の学力と学習者オートノミー」をテーマとして、自律学習研究会のメンバーが所属する大学での実践事例に基づく研究発表と討議が行われた。今後育むべき資質・能力の内実を考え、自律的言語学習者を育成するためにどのような英語教育プログラムを開発すべきか、学習者の自律的成長を支援する教師のあり方はどうあるべきか、知識・スキルの偏重傾向が見られたこれまでの日本の英語授業はどのように改善されるべきか、といったような問いかけが参加者間で共有され、新たな展望に向けて討議を深めた。英語教育において問われるこのような課題は、専門分野の垣根を越えて教育全体に関わる普遍性を持っていることが、多様な学会・研究会への参加を通して認知される。「学び中心」への教育のパラダイム・シフトが、欧米に比べてかなり遅れて進行している日本の教育事情を踏まえて、海外の最新の理論と実践を学びながらより先進的な研究を展開するために、研究会としての今後の方向性を協働的に探る必要がある。